

地域持続発見委員会

委員長 佐藤 尚孝

「地域に新しい風を吹き込み、地域への貢献意識の高い若者の育成を図る」

柏崎刈羽地域（以下、当地域）の人口は1995年をピークに減少が続いており、一般社団法人柏崎青年会議所（以下、本会議所）においてもその影響を受けるように直近10年間で会員数は著しく減少し、2013年に80名近くいた会員が現在では約30名程度まで減少しました。また、人口減少に併せて地域の経済活動に欠かせない生産年齢人口も、事業所数の通減、交通・生活面の利便性欠如といった要因を背景に、特に若者を中心に減少傾向にあることで、地域経済や企業の存続にも影響を与えています。

本会議所の活動規模は縮小傾向にありますが、私たちは「できることを見つめ直し」、「地域のためにできることを考え」、「より効果的な活動を実践する」ことで当地域を盛り上げることが求められます。そして、地域住民や地元団体を巻き込んだ事業展開を行い、子どもたちが当地域の魅力や社会課題に関心を持つことで、地域に根差す若者を多く創出することが必要不可欠です。

当委員会では、若者が興味関心を持つ分野に着目し、地域住民や企業・団体を巻き込み一体感をもったエンターテインメント性が高い新たな事業として、テクノロジー技術を活用した事業を推進します。それによって、子どもたちが当地域の魅力や社会課題に気付く機会や当地域に新しい技術・文化を根付かせる契機を提供することに加え、テクノロジー技術が将来の当地域の発展にどのように寄与するのか、地域住民を巻き込んで考えていくための土壌を醸成します。

また、ぎおん柏崎まつりにおいては、先輩方々が築きあげてきた伝統と文化を承継し、地域で一番活気と節度のある神輿を体現します。そして、地域住民や外部団体と連携し本会議所のみならず、当地域が盛り上がるための新しい神輿のスタイルを構築し、本会議所が当地域にとって不可欠な組織となるようプレゼンス向上を図ります。

・担当例会(5月)

若者に関心の高いテクノロジー技術を活用し、地域の課題解決や経済発展に寄与する技術に触れる機会の提供と、地域住民と地元団体が一体となって地域の課題に向き合う意識を醸成します。

・担当例会(7月)

古き良き伝統・文化を継承し、ぎおん柏崎まつりでの新しい神輿のスタイルを構築することで、地域で一番活気と節度のある神輿を体現します。

・担当例会(12月)

一年間の事業を振り返り成果を共有することで次年度へ想いを継承する場に加え、メンバー交流の場として盛大に盛り上げます。

- ・職業講話(通年)

市内学校への講師派遣・講義などを通じて、青少年への学びの機会を提供します。